

赤ひげ先生奮闘記!

明石市では少ない糖尿病専門医として患者さんをサポートし、高い治療実績を上げている横田一樹先生。クリニックづくりのこだわりや患者さんとの信頼関係を築く上で大切にしていることをうかがいました。

皆で連携してあなたを診ています。
安心して治療に取り組みましょう。



木や緑などの自然を取り入れ、アロマのよい香りが漂う心地のよい待合室。

PROFILE

よこた内科クリニック院長(兵庫県)

横田一樹先生

よこたかずき 2003年神戸大学医学部卒業後、同大学附属病院入局。住友病院、高砂市民病院内科医長、石井病院内科医長兼透析室長などを経て、17年よこた内科クリニック開設。医学博士。日本糖尿病学会専門医・指導医、糖尿病療養指導医。



さらに同クリニックでは患者さんがストレスなく快適に通院できるよう、待合室に緑やアロマを取り入れるなど内部にもこだわりました。検査機器も充実させ、糖尿病の診断基準の1つHbA1c分析装置(ヘモグロビンエーワンシー)には、指先血で測定でき患者さんの負担が少ない測定器と、高精度・高速測定が可能な測定器を導入。クリニックには珍しい肝機能や腎機能を約15分で調べ

「糖尿病で問題となるのが治療中断です。そのためには通いやすが大切。当時明石市に隣接する神戸市や加古川市には多くの糖尿病専門医がいましたが、明石市にはおらず、患者さんは隣の市まで通院しなければなりませんでした。」

「通いやすく居心地のいい患者さんのためのクリニック」
J・R明石駅直結のビル内にあるよこた内科クリニック。糖尿病を専門に内科全般にわたって幅広い診療を行っています。横田先生がこの地にクリニックを開業した理由は「とにかく患者さんが通いやすいクリニックをつくりたい」との思いから。糖尿病で問題となるのが治療中断です。そのためには通いやすが大切。当時明石市に隣接する神戸市や加古川市には多くの糖尿病専門医がいましたが、明石市にはおらず、患者さんは隣の市まで通院しなければなりませんでした。」

PRIVATE COLUMN

余暇は観劇を楽しむ

プライベートでよくお芝居やミュージカルを見に行くという横田先生。劇団四季や劇団☆新感線などがお気に入りとのこと。お休みが合うとよくご家族で出かけるそうです。



先日お子さんの希望で見に行ったという劇団四季「リトルマーメイド」の公演会場で1枚。

横田先生が患者さんとの信頼関係を築く上で活用しているのが、日本糖尿病協会発行の『糖尿病連携手帳』です。そこには、HbA1cの値だけでなく、合併症の検査結果なども細かく記録。初診では「他の医療機関とも連携してあなたを診ている」ことを強調し、患者さんに安心して通っていただけるように伝えているといいます。



様々な検査機器をそろえる同院。HbA1c分析装置は用途に応じて2種類を用意。

クリニック内の通路に並ぶ糖尿病療養指導士の認定書。スタッフのほとんどが取得している。



る分析装置や、神経障害の早期発見に役立つ簡易神経伝導検査装置、動脈硬化の有無や状態を調べる装置など多くの検査が可能な環境を整えています。「糖尿病は全身疾患です。いつでも全身の検査をできるようにそろえていたらこうなりました。」

横田先生が患者さんとの信頼関係を築く
患者さんとの信頼関係を築く
横田先生が患者さんとの信頼関係を築く上で活用しているのが、日本糖尿病協会発行の『糖尿病連携手帳』です。そこには、HbA1cの値だけでなく、合併症の検査結果なども細かく記録。初診では「他の医療機関とも連携してあなたを診ている」ことを強調し、患者さんに安心して通っていただけるように伝えているといいます。